

女子大学生の就業意識と 自己効力感の関わり

安藤ゼミ 両角 日菜子

目次

第1章 序論

- 第1節 問題関心
- 第2節 ライフコース観と自己効力感
- 第3節 女子学生の就業動機
- 第4節 性役割観及び母親の就業についての考えと就業意識
- 第5節 本研究の目的

第2章 予備調査

- 第1節 目的
- 第2節 方法
- 第3節 結果
- 第4節 考察

第3章 本調査

- 第1節 目的
- 第2節 方法
- 第3節 結果
- 第4節 考察

第4章 総括

引用文献

参考文献

付録1 予備調査質問用紙

付録2 調査質問用紙

問題・関心

- ・女子大学生が家庭と仕事の両立を目指すには高い自己効力感(ある行動を自分はうまくできるという自信の程度)が必要で、自己効力感が低いと家庭と仕事のどちらか片方のみを選ぼうとすると考えられる(太田・久保田・山田・高城・漁田・日隈, 2019)
- ・女子学生は就職先を決定するにあたって、結婚・出産を始めとする人生設計についてでも考えることが必要とされている



女子学生の就業意識に自己効力感及び結婚観が及ぼす影響は大きいと考えられる

目的

女子大学生の就業意識の実態及び、それらに自己効力感や結婚観等がどのような影響を及ぼしているかを明らかにする。

仮説1 就業動機と就業継続意図は正の関連を持つ

仮説2 自己効力感の高い学生は就業継続型のライフコースを希望する

仮説3 自己効力感とライフコースの実現可能性の評価は正の関連を持つ

調査概要

＜調査期間＞

2022年9月

＜調査対象＞

女子大学生83名

＜調査方法＞

Googleフォームによるアンケート調査

＜質問紙構成＞

属性

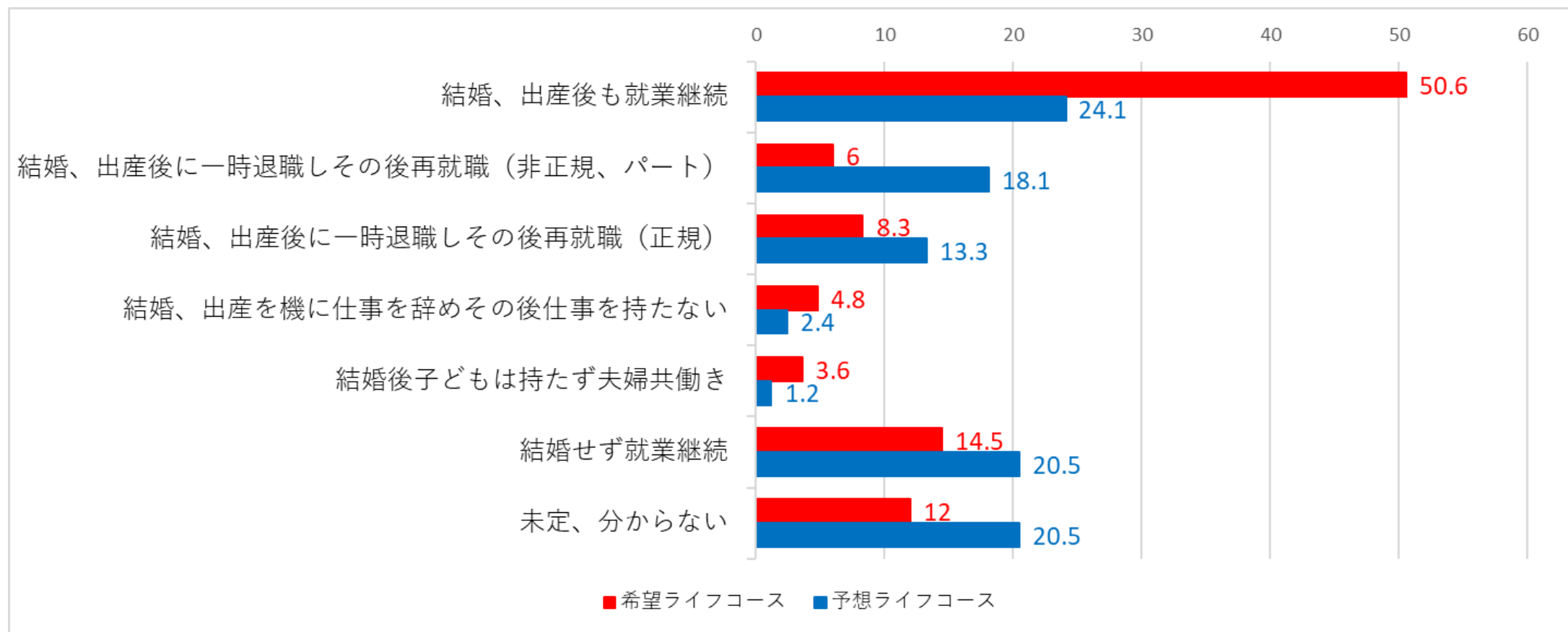
ライフコース観

就業に対する考え

自己効力感について

結婚観について

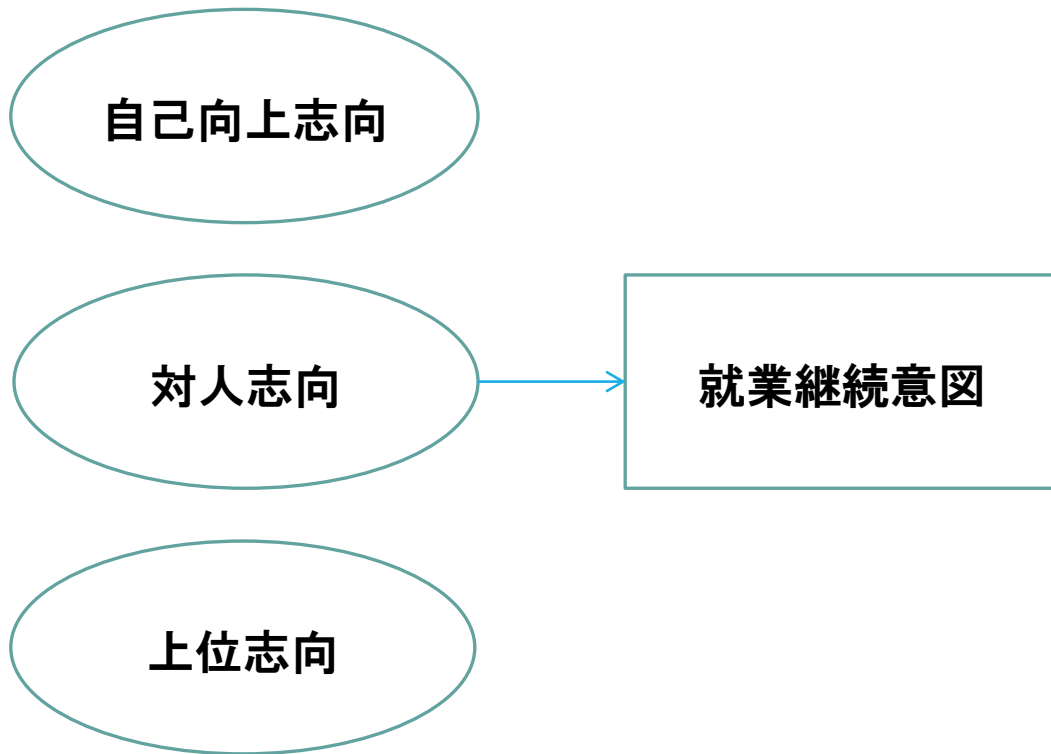
結果① 希望ライフコースと予想ライフコース



約半数が仕事と家庭を両立することを希望→ その内6割は両立が叶わないと予想

結果②

仮説1 就業動機と就業継続意図は正の関連を持つ



・仕事による成長を志す「自己向上志向」、
仕事を通じた人との関わりを重視する「対人志向」、
社会的地位や名声を求める「上位志向」を独立変数、
就業を中断することなく長期間継続したいという意図
を示す**就業継続意図**を従属変数として重回帰分析
を行った。

→「対人志向」のみ**就業継続意図**と有意な関連が見
られた。

結果③

仮説2 自己効力感の高い学生は就業継続型のライフコースを希望する

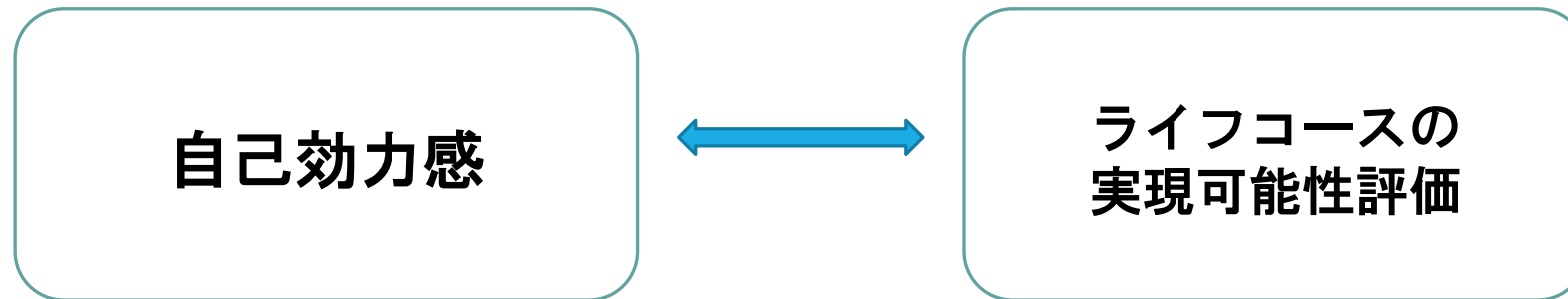
→希望ライフコースと自己効力感の高低に有意な関連は見られなかった。

		希望ライフコース			
		就業継続	再就職	非婚	その他
自己効力感	高	49%(18人)	22%(8人)	14%(5人)	16%(6人)
	低	59%(27人)	9%(4人)	15%(7人)	17%(8人)

結果④

仮説3 自己効力感とライフコースの実現可能性の評価は正の関連を持つ

- ・自己効力感とライフコースの実現可能性評価で相関分析を行った
→ $r=.30$ の有意な弱い正の相関が見られた。



考察

女子大学生の約半数が仕事と家庭を両立することを希望するが、内6割は両立は叶わないと予想

女性の正規雇用労働者比率が 20 代後半でピークを迎えた後、一貫して下がり続ける「L字カーブ」が課題（働き方の二極化）

-
- ・ 厳しい現状を認識した上での考え
 - ・ 身近なロールモデルが少なかったのではないか

考察

就業継続意図は対人志向（仕事を通じた人との関わりを重視する志向）のみ関係している

-
- ・仕事を辞めると社会とのつながりが減ってしまう
 - ・一つの仕事を長期間継続することでより深い人間関係を持つことができる

自己効力感とライフコースの実現可能性の評価は弱い正の相関が見られた

-
- ・希望ライフコースへの自信とこだわりの強さ
 - ・自己効力感以外の要因の影響もあるのでは

ご清聴ありがとうございました